

「国際地域イノベーター人材養成プログラム」の概要

北海道教育大学函館校
准教授 佐藤 香織

北海道教育大学函館校地域協働推進センター人材養成プログラム部門では、専攻・グループの垣根を超えた人材養成プログラムである「HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム」（以下、「函プロ」）を2018年度から実施している。「函プロ」は、道南地域の観光や教育の面に焦点を絞り、「地域に関する深い知識」「地域の潜在的な能力を見つけ出す能力」「地域の魅力を情報発信する能力」等を育成するプログラムであり、「地域のコンシェルジュ」として地域のニーズにきめ細かく対応できる人材の養成を行ってきた。この「函プロ」は、2021年度よりさらに進化し「国際地域イノベーター人材養成プログラム（以下、「国プロ」という）」として生まれ変わった。本稿では、この「国プロ」の概要を示す。

「国プロ」は、国際的な視野で地域と協働することによって、地域にイノベーションを起こせる人材を養成することを目指す。これからの地域社会はさまざまなバックグラウンドを持つ人々が共生・協働していく社会であり、地域の問題をグローバルな視点で多角的に捉え、共生・協働を主導していく人材が必要であるからである。そのため、観光や教育の面のみならず、さまざまな地域課題を多角的に捉え、解決できる能力を育成していく。

上述のような人材を養成するためには、「国際」や「地域」についての幅広い視点と、地域に住む人々の「多様性」についての深い理解が必要である。これらについては、「国プロ基盤科目」である「国際地域イノベーション論I・II」と、「国プロ共通科目」である「ダイバーシティコミュニティ論I・II」を2021年度より新設し、函館校の教員の多様な専門分野を活かしたオムニバス形式の講

義及びディスカッションを行った。

上記の「国プロ基盤科目」及び「国プロ共通科目」を履修後、プログラム生は次にあげる2つの「国プロ専攻」のどちらかを選択する。1つは「日本語学習支援」専攻であり、もう1つは「地域づくり」専攻である。

「日本語学習支援」専攻では、定住外国人への日本語学習支援はもちろんのこと、生活者としての外国人が必要とされる支援をマネジメントできる能力などを養成することを目指す。また、「日本語学習支援」の専攻科目は、文化庁で定めた「日本語学習支援者養成カリキュラム」に準拠しており、外国にルーツを持つ児童・生徒の日本語学習支援が行える教員の養成にも寄与する内容となっている。教員を目指す学生の積極的な履修を期待したい。

また、「地域づくり」専攻は、「地域づくり」系と「観光まちづくり」系があり、地域共生社会づくりや、国際観光都市・函館を舞台とした観光まちづくりに寄与する、イノベティブな人材養成を目指す。地域滞在型インターンシップや観光振興に関する実習など、実際に地域で活動することで、学びを深めていくことが可能である。

2021年度の新入生291名のうち、141名が現在「国プロ」を受講しており、「国プロ」に対する学生からの期待は非常に高いことがうかがえる。多くの「国プロ」生が地域の中で学びを深め、いずれは地域社会のリーダーとして活躍してくれる人材になることを願い、本プログラムの内容充実に向けていきたい。